

キャラクター名
獅々戸 夏彦(ししど なつひこ)

プレイヤー名

シンドローム	ハヌマーン ブラックドッグ		ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	高校生
	オプション		年齢	16	性別	男の子
覚醒	生誕	衝動	闘争	初期侵食率	46 %	
出自	親の理解	経験	大勝利	邂逅	任意	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	3	1	0			4	行動値	6
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	6
精神	2	0	0			2	戦闘移動	11
社会	1	0	0			1	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	5		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志	2		調達	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ガイブロウツップ	白兵	4r+3	-	10		オートで装備, アイテム3個分, マイクで使用で+5
	白兵	8r+5				①②③⑤
	白兵	4r+5				①②③⑤⑥範囲(選択)
	白兵	4r+5				①②③⑤④装甲無視(80%以上)

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
サーレター	
思い出の一品	

合計装甲:	0	合計回避:	0	
ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
機械化兵(ルボーク)	P	N		
日々出晴英(ひびで はるひで)	P 友情	N 敵愾心		
"タイクーン" 半田半蔵(はんだはんそう)	P 尽力	N 不安		
XXX	P 尽力	N 脅威		
神斬 無蔵(かみきり むそう)	P 連帯感	N 嫌気		
トーマス	P 好奇心	N 脅威		
糸守	P 信頼	N 不安		
最大財産P:	6	残り財産P:	2	

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
コンソレイト:ハヌマーン	2	2	Xジャー	-	-	-	-	
効果:	C値-Lv(下限7)							
一閃	★	2	Xジャー	武器	-	<白兵>	-	
効果:	全力移動ののち白兵攻撃							
電光石火	3	3	Xジャー/リアクション	-	-	-	-	
効果:	ダメージ+[Lv+1]個, 1D点のダメージ							
バリアクラッカー	1	4	Xジャー	武器	-	<白兵>	80↑	
効果:	ガード不可, 装甲無視, シリアLv回							
ハートワイヤード	3	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果:	Lv個アイテムを取得, 侵食率基本値+4							
獅子奮迅	2	4	Xジャー	武器	範囲(選)	<白兵>	-	
効果:	白兵攻撃を範囲選択に, シリアLv回							
先手必勝	5	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果:	行動値+Lv*3, 侵食率基本値+4							
リミットリリース	★	6	オート	至近	自身	自動	100↑	
効果:	判定のC値-1(下限5), シリア1回							
球電の盾	5	1	オート	至近	自身	自動	-	
効果:	ガード+[Lv*2]							
軽功	★	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果:	体がすさまじく身軽							
人間発電機	★	-	Xジャー	至近	単体	自動	-	
効果:	充電器							
無音の空間	★	-	Xジャー	視界	単体	自動	-	
効果:	気配を消す							
効果:								

名前ネタ: 獅子(ライオン)、しなつひこ(風の神)、ストロボ(瞬き・ロボ(ロボット))
 誕生日: 8/19 (8月固定でロール)
 師: 結夜七

19/06/08「コード・マジエンタ」
 19/09/12「パーフェクト・グレイ」

「それがオレだから」
 -----コード・マジエンタPC1RHOネタパレ

エリアの酸や攻撃により、夏彦は顔が爛れて片目を失い骨折して骨が使い物にならなくなった。
 大敗した瞬間だった。

その後死にかけていた夏彦はほとんど全身をサイボーグ化して一命をとりとめる。
 しかし幼い顔立ちで身長も低いのが、成長期がくると信じていた彼が成長することは今後絶対に来ることがなかった。
 この姿を鏡で見ることでそが臥薪嘗胆となり、常に苦々しい思いと共に自称天才チルドレンは天才でありつづけようとしていた――